

お詫びと訂正

弊社刊行の『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版』の本文中、以下の箇所に誤りがございました。お詫びして、訂正させていただきます。（2024年8月30日更新）

該当頁	該当箇所	誤	正	備考
82 頁	右段の下から 11 行目から 7 行目まで	浣腸，坐薬，摘便は， <u>硬便により排便困難となり，肛門裂傷や痔核を生じる場合，血圧上昇，頭蓋内圧亢進によって脳出血などを起こす危険性のある場合や，腸閉塞が疑われる場合に行われる。ただし，浣腸は急激な血圧低下をまねく可能性があるため，病状によって注意が必要である。また，過度な不快感を生じ，他の方法では改善しない場合にも行われる。</u>	浣腸，坐薬，摘便は， <u>便が直腸近くまで下がってきているが自力では排便できないときに使用する。ただし，浣腸に対しては腸管内出血や腹腔内炎症，強い全身衰弱，下部消化管術直後，急性腹症が疑われる患者には添付文書上，禁忌事項となっている。また同様に，肛門・腸管に炎症，腸管麻痺，心疾患・脳出血のある患者や妊婦には慎重投与が必要である。</u>	8月30日更新